

## 高松でワーケーション

コロナ禍がおこり、テレワークなどが急速に進められることにより、会社のあり方、働き方が大きく変わろうとしています。農業や漁業などへの従事も含め、都会の若者の地方志向も本物のトレンドとなってきました。そんな時代の流れの中で注目を集めているのが、地方の観光地などで余暇を楽しみながら仕事をする「ワーケーション」という働き方です。

「ワーケーション」とは、ワーク（仕事）とヴァケーション（休暇）を組み合わせた造語です。インターネットの整備により、パソコンやスマホなどの情報端末さえあれば、いつでも、どこでも、誰とでも繋がることができるようになった事で、本来なら相反する仕事と休暇を同時に満足いくレベルで実行できるようになったのです。

本市では、このような「ワーケーション」の受け入れモデル地域として女木島・男木島と塩江地域を設定して、高松ならではの「島ワーケーション」、「山（温泉）ワーケーション」を推進しています。特に「島ワーケーション」では、この動きに合わせて、フェリー「めおん」もシマシマ模様の新造船が就航し、光ファイバーの海底ケーブルが男木島まで敷設されます。

高松の地には、お遍路さんに対するおもてなしの文化があります。また、日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海国立公園の中心地で、穏やかで四季が感じられる豊かな気候風土があります。10年あまり前、瀬戸内国際芸術祭が始まった時にこのコラムで、これからはスローライフ的な「地域の自然・歴史・伝統・文化を大切に暮らすこと」などに価値観を置く生き方を実践できるまちづくりが求められている、と書きました。今の地方移住や「ワーケーション」の受け皿の地として多くの人々が求めるものも同様であると思います。その意味で高松は「ワーケーション」にはもってこいの都市であると自負しているところです。

蛇足ですが小さい頃、「V（ヴイ）・A（エイ）・C（シー）・A（エイ）・T（ティ）・I（アイ）・O（オー）・N（エヌ） 楽しいな！」という歌が流行っていました。アフターコロナをにらみながら、「VAC」を「WORK」に変えて「楽しい高松ワーケーション」を発信してまいりたいと思います。

